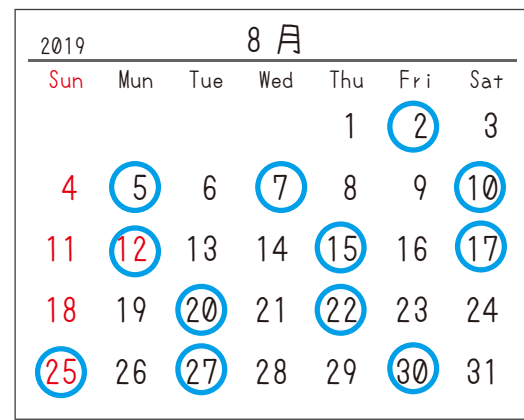
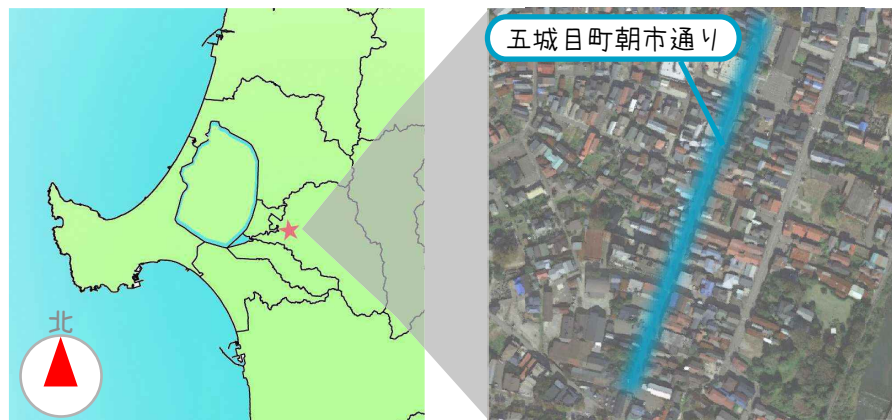


スキマをつなぐまちの家具

歴史ある朝市の風景がある町に、木で作られた屋根やイス、テーブルなどの家具が
まるで町のスキマを縫い込むように置かれていく。
「まちの家具」により町全体をゆるやかに繋ぎ、
朝市のある新しい暮らし、町をシェアする空間を提案する。

Scene A (朝市開催時)：地域住民も外国人もお客さんも、みんなで一体となって盛り上げる朝市

朝市のある風景…五城目町



秋田県五城目町の下町(したまち)通り【通称：朝市通り】では、毎月下二旬2・5・7・0のつく日に、通称「朝市通り」と呼ばれる朝市が月12回ほど開かれている。地域の生活者として親しまれており、地元の人が育てて収穫した新鮮な野菜や、山菜、お手製の佃煮や漬物が並び、始まりは1495年までさかのぼり、現在まで500年以上続いている歴史ある朝市である。五城目朝市は、住民にとって欠かせない『町の冷蔵庫』として親しまれている。



「ごじょうめ朝市 Plus+」の開催
新たな出店数を増やす試みとして、近年開催されているのが「ごじょうめ朝市 plus+」というイベントである。若手の出店や新たなチャレンジを応援する目的も含め、外都からの出店を許可している。定期朝市開催日の日曜日にあたる日、つまり月1回の頻度で開催している。
いつもの朝市に加え、手作りアクセサリや焼き菓子などの商品が並び、古くからの朝市の店と新しい店が混在する風景が生み出されている。

問題点
出店者の高齢化が顕著になり、出店数が減少しつつある。
農業が続けられない(後継者不足)
体力的に出店が難しい...

ごじょうめ朝市 Plus+ により新しいお店は増えていくが...
昔ながらの特産品や朝市の風景が消えてしまう恐れがある。

五城目町の移住推進活動

五城目町は「五城目移住宣言」を掲げ、五城目への移住・定住促進の活動を精力的に行っている。

短期の移住の歓迎	空き家情報の提供	住民の紹介	特産品の紹介	地域おこし協力隊の活動
「SHARE VILLAGE 町村」 第137年の古民家を利用した、シェア形式の宿泊施設。近所さんと一緒に料理をしたり、茅葺のまち歩き体験をしたりできる。	「ギャラリーものかたり」 第100年の空き家を改修したギャラリー。絵本の販売会や展覧会、ワークショップ等が行われる。	「下町暮らし室HIKOBÉ」 江戸時代から続く「福祿寿酒造」の直営店。日本酒の販売はもちろん、カフェもありが定期イベントも開催される。		

五城目には昔からある建物を改修し新たな使い方を狙った魅力的な施設が目玉を集めている。
昔ながらの朝市も人気であり、国内だけでなく移住者や観光客も年々増えてきている。

移住者=多様な文化を持った新たな住民が増えてきている。

コンセプト

五城目の昔ながらの伝統を守る × 多様な文化を持つ人々と暮らす

五城目産の農作物を使った **あさまんまカフェ** in 五城目朝市

※あさまんま=秋田弁で「朝ごはん」
朝市を利用し、「多様な食文化」に触れ、移住者と地元住民が共生するコミュニティ空間をつくる。
新しいものを取り入れつつ伝統を守る、新しい朝市の方針を提案する！

移住体験プログラムの提供
五城目に移住したい人
移住体験プログラム
五城目に住む
お祭りへの参加
農作物の栽培・収穫
朝市への出店
五城目への移住希望者に、「移住体験プログラム」を提供。移住者が朝市への出店を目指すプロセスを細く込み、自分で考えた朝ごはんメニューを提供する「あさまんまカフェ」として出店する。

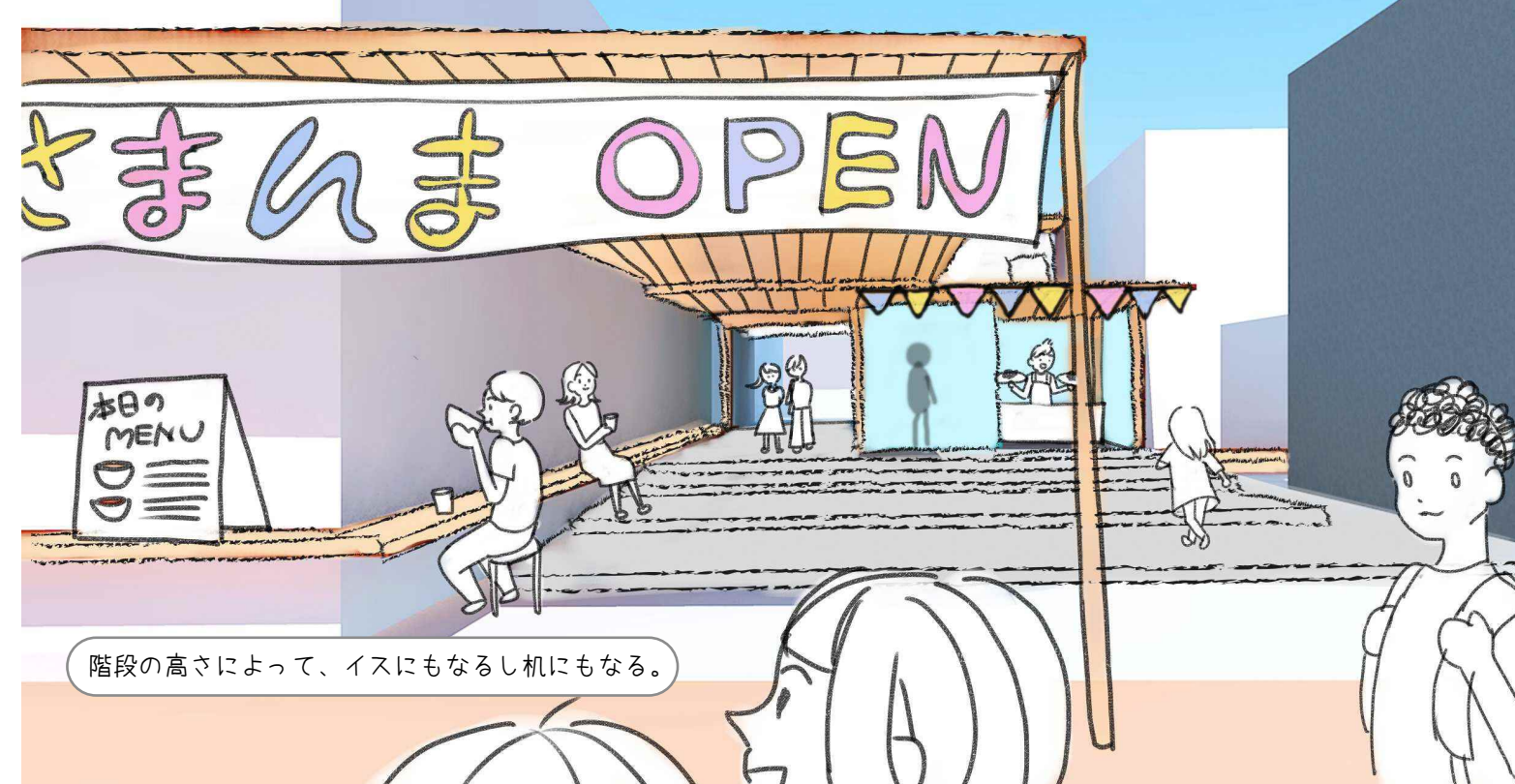
五城目産木材の利用

生活用品(家具やお皿など)
五城目産秋田杉 → 家具・お皿など
五城目は林業がとて盛んな地域である。秋田杉の人口造林率は80%以上であり、昔から多くの食料品を生産してきた。昔は近隣で取れる秋田杉を馬と船で町まで運び、タンスなどの生活用品を作るための材料にしていた。現在でも、お皿などの木材容器を製作する職人が活動していたりと、五城目の新たな食文化を形成していく上で欠かせない材料になっていくと考えられる。

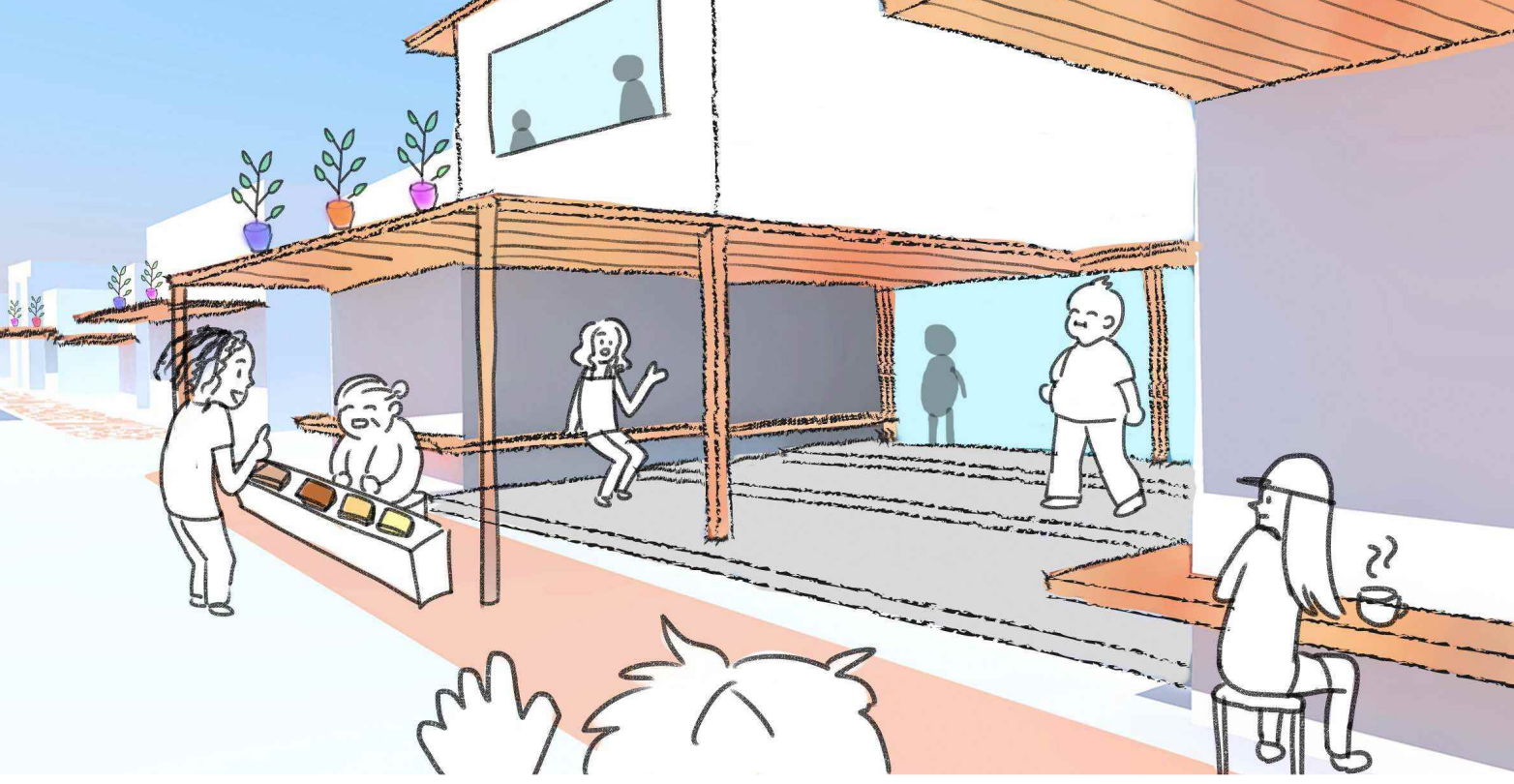
生活の営みに浸透している木材
家の家具や食器を家の中で使う
間伐材の薪ストーブで暖を取る
「あさまんま」の食器に木材容器を使う
そんな木材利用の文化が残る五城目町での新たな木材の使い方を考える。

まちのスキマ空間に屋根やイス、テーブルなどの「まちの家具」を置くことを提案する。
テーブルやイスなどの木材の家具をまちの外に表出させることで、住民がシェアすることができ、町全体がリビングのような空間になる。

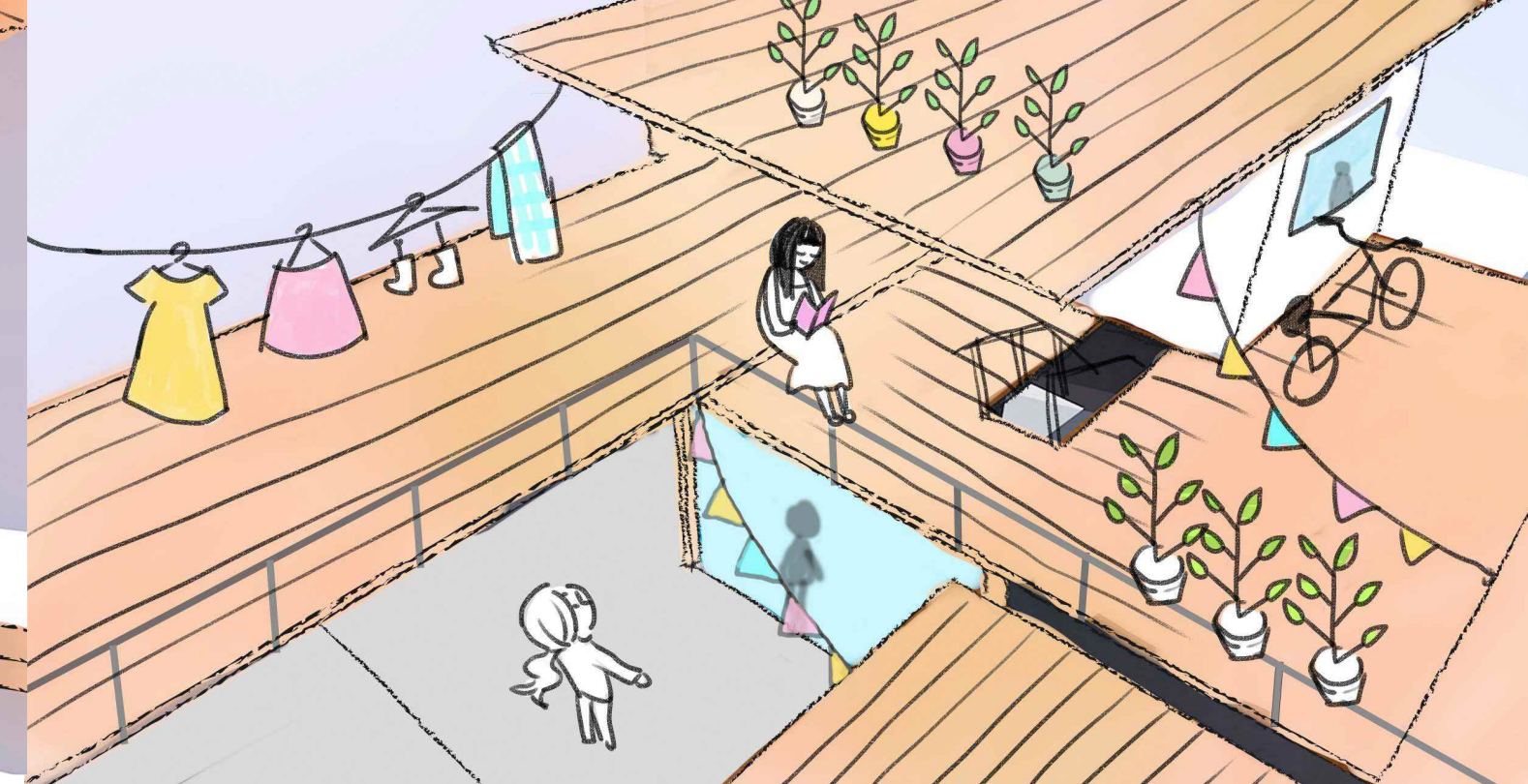
Scene B (朝市開催時)：「あさまんまカフェ」オープン！路地のように向こう側に抜ける空間



Scene C (通常時)：内部のような外部空間を持つ「まちのダイニング・キッチン」が地域住民の憩いの場に



Scene D：2Fの住戸スペース。住民それぞれの暮らしが町に表出していく。



断面図



まちのダイニング・キッチン (店舗空間)

まちの冷蔵庫
朝市通り
キッチン
ダイニング・キッチン
朝市開催時には、世界の朝ごはんを提供する「あさまんまカフェ」となる。
通りに沿った町のスキマ空間が「まちのダイニング・キッチン」となり、町全体でシェアされたり、店舗として利用したりできる。
食事や料理を町に表出させることで、1人1人の生活が町にあふれ、様々な文化が共生。

内部のような外部空間
通り土間
路地
屋根
ピロティ
2F部分：オーナー住戸
1F部分：シェアスペース
まちの家具
イス
テーブル
「まちの家具」は、ひとつひとつが繋がっており、高さや奥行き、長さを揃えることで屋根にもなり、イスにもなり、テーブルにもなり、様々な用途で使うことが出来る。

平面図

